

聴覚障がい者とのコミュニケーションは スムーズにできていますか？

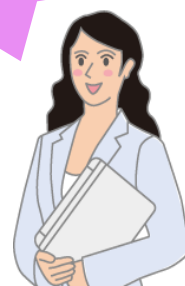
聴覚障がい者は補聴器を
使用しているから大丈夫！

自社は聴覚障がい者も一緒に
勤務できているから大丈夫！

筆談によるコミュニケーションを
しているから大丈夫！



ちょっと待って！
本当にそれで大丈夫？



想定される問題

問題 1

社内会議などで聴覚障がい者がタイムリーな内容把握ができず会議でのディスカッションが難しく健聴者とともに働ける労働環境が限られてしまう

問題 2

研修会において聴覚障がい者がグループワークの参加や質疑応答ができず自己スキルアップが思うようにいかない

問題 3

会議での意見交換が活発で、意見の聞き漏れや議事録をとることが大変

解決のヒント

なるほど！



問題を解決するためには、以下のような対策が必要です

- 聴覚障がい者が健聴者と同様に会議や研修会に参加するための支援ツールが必要。
- 音声認識による発話のテキスト化で会話の流れをリアルタイムに確認。
- 音声認識で会話履歴を保存することで、会議内容の把握や議事録作成が容易になります。

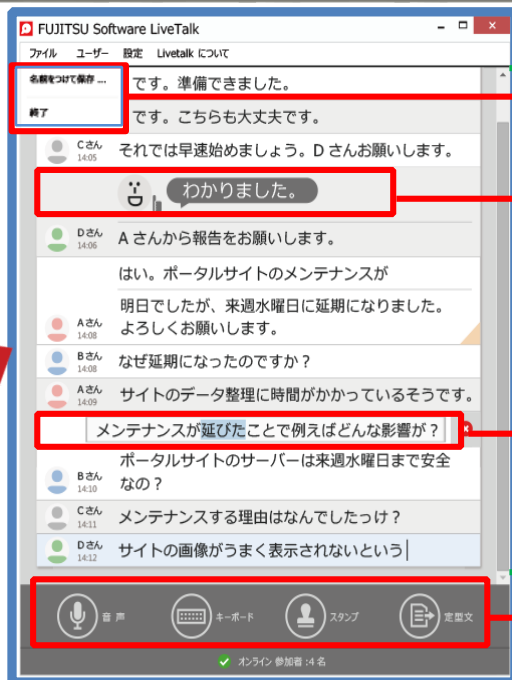
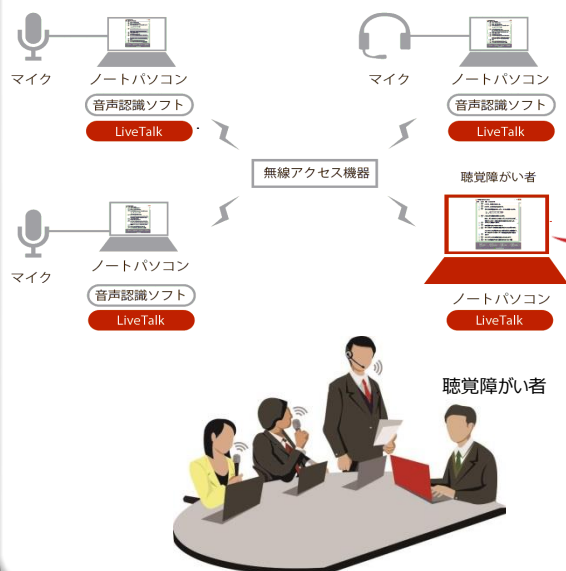
その課題、「FUJITSU Software LiveTalk」が解決します！

解決策



音声認識とリアルタイム転送技術で発話内容を複数人で情報共有

利用イメージ



テキスト保存機能

スタンプで発話

参加者の発言を
時系列表示

テキストの修正

入力手段

LiveTalk 画面

特徴

1

音声認識（AmiVoiceを使用）による発話のテキスト化
◆ ヘッドセットやハンドマイクによって発話を音声認識し、リアルタイムにテキスト化

2

会議参加者への発話のリアルタイム表示
◆ 会議に参加した人のPC同士をローカル無線LANで接続しリアルタイム転送
◆ 複数の人の同時発話を音声認識し表示可能

3

聴覚障がい者の発言サポート
◆ 聴覚障がい者の**発言手段**として、キーボード入力、スタンプ入力、定型文

4

音声認識の誤変換の修正
◆ 音声認識されたテキストの会議参加者全てのPCによる修正
◆ 会話ログの保存と議事メモとしての活用

新たな機能強化

1

多様なデバイスへの対応拡大
◆ タブレット、スマートフォン対応 **2016年3Q対応予定**

2

音声認識のクラウド化
◆ クラウド版音声認識エンジンの利用による音声認識率の向上 **2016年3Q対応予定**

3

多言語、翻訳対応
◆ 14ヶ国語 **2016年4Q対応予定**

構成例（健聴者4名、聴覚障がい者1名の場合） 税別

Live Talk V2（5ライセンス）	200,000円×1	200,000円
Live Talk メディアパック	5,000円×1	5,000円
AmiVoice SP2※1	19,800円×4	79,200円
（音声認識ソフト）	合計	284,200円（一括）
Live Talk V2 プログラムサポート（保守）	10,000円×5	
	合計	50,000円（年額）

※使用機材（パソコン等、マイク、ルーター等）については、別途ご用意をお願いします。別途購入をご検討はお問合せください。
※1）聴覚障がい者につきましてはインストール不要です。



自治体、民需、学校など様々なお客様からお問い合わせが増加しております。

お問い合わせ先